



平成 21 年 8 月 27 日

各 位

会社名 ニチハ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 井上 洋 一 郎  
 (コード番号 7943 東証一部・名証一部)  
 問合せ先 取締役 常務執行役員財務部長 南 光 正  
 (TEL 052-220-5111)

特別損失の計上並びに業績予想の修正及び配当予想に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 3 月期 (自 平成 21 年 4 月 1 日 至 平成 22 年 3 月 31 日) 第 2 四半期において、連結及び個別決算ともに、下記のとおり特別損失を計上することといたしましたのでお知らせします。

また、これに伴う業績への影響のほか、最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 19 日の決算発表時に公表いたしました第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想 (以下「前回発表予想」) を修正するとともに、未定でありました平成 22 年 3 月期の中間配当予想を下記のとおりとすることといたしましたので、併せてお知らせします。

記

1. 特別損失の計上

当社が所有する賃貸用固定資産 (土地・建物等) につき減損処理を実施し、連結及び個別決算ともに、当第 2 四半期において約 700 百万円の減損損失を特別損失として計上いたします。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 22 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正

(自 平成 21 年 4 月 1 日 至 平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 19 日発表)	46,000	600	300	△ 100	△ 2.72
今回修正予想 (B)	43,000	△ 500	△ 640	△ 1,550	△ 42.11
増減額 (B-A)	△ 3,000	△ 1,100	△ 940	△ 1,450	—
増減率 (%)	△ 6.5	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 20 年 9 月期)	48,372	101	36	△ 1,312	△ 35.65
前年同期比増減率 (%)	△ 11.1	—	—	—	—

(2) 平成 22 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正

(自 平成 21 年 4 月 1 日 至 平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 19 日発表)	93,000	2,000	1,400	300	8.15
今回修正予想 (B)	88,400	700	260	△ 1,250	△ 33.96
増減額 (B-A)	△ 4,600	△ 1,300	△ 1,140	△ 1,550	—
増減率 (%)	△ 4.9	△ 65.0	△ 81.4	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	92,453	△ 1,059	△ 1,536	△ 9,081	△ 246.77
前期比増減率 (%)	△ 4.4	—	—	—	—

(3) 第2四半期連結累計期間連結業績予想の修正の理由

当社グループ主力製品の窯業系外装材（以下「外装材」）の主要マーケットである戸建住宅の新設着工戸数は、昨年10月以降は各月において前年実績を大幅に下回っており、この影響から外装材業界全体の国内出荷数量についても同年11月以降は前年比マイナスが続いております。当第1四半期においては、同出荷数量は前年同期比17.2%減と直前四半期（本年1～3月）よりもさらに落ち込む結果となるなど、需要は前回発表予想時の想定を上回る低水準で推移しました。第2四半期以降は、市況はこの最悪状態を脱するものと思料されるとともに、前回発表予想に織り込みました新製品の投入などによる販売シェアの回復は想定通り進捗しているものの、第2四半期連結累計期間を通じては市場における需要の落ち込みが想定を上回ることから、売上高は前回発表予想を下回ると予想されます。

また、損益につきましては、売上高が前回発表予想対比未達となること及びこれに対応した生産調整の影響が大きく、これらをコストダウンや固定費削減などの業績改善策により吸収しきれないため、営業利益、経常利益ともに前回発表予想を下回る見込みであります。

これに加えて、上記のとおり減損損失として特別損失を計上することから、当期純損益は前回発表予想を大幅に下回る見込みであります。

(4) 通期連結業績予想の修正の理由

当下半期の業績見通しにつきましては、今後の新設住宅着工戸数の動向並びに諸資材の価格変動に伴うコストダウンの実効度合いなど業績に大きな影響を与える不透明な要因が少なくありません。市況は当第1四半期を底として徐々に回復に向かうと思料されるものの、その動きは鈍く、前回発表予想時の想定よりも遅れることが現段階では予想されることから、売上高は前回発表予想を下回ると見込まれます。従いまして、第2四半期連結累計期間連結業績予想の下方修正と合わせ、通期における売上高も前回発表予想を下回る見込みであります。

また、損益につきましては、下半期にはコストダウン等に一層注力し業績改善に取り組むものの、売上高の前回発表予想対比未達を吸収するまでには至らず、下半期においても前回発表予想を下回ると予想されることから、第2四半期連結累計期間連結業績予想の下方修正と合わせて、営業利益、経常利益、当期純損益ともに前回発表予想を下回る見込みであります。

(参考)

(1) 平成22年3月期 第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正

(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (平成21年5月19日発表)	37,700	600	600	300	8.15
今回修正予想(B)	35,300	△ 300	△ 300	△ 1,000	△ 27.17
増減額(B-A)	△ 2,400	△ 900	△ 900	△ 1,300	—
増減率(%)	△ 6.4	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成20年9月期)	42,351	665	877	△ 166	△ 4.52
前年同期比増減率(%)	△ 16.6	—	—	—	—

## (2)平成22年3月期 通期個別業績予想数値の修正

(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (平成21年5月19日発表)	75,300	1,200	1,200	△ 550	△ 14.95
今回修正予想(B)	71,300	100	100	△ 1,950	△ 52.98
増減額(B-A)	△ 4,000	△ 1,100	△ 1,100	△ 1,400	—
増減率(%)	△ 5.3	△ 91.7	△ 91.7	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	80,982	263	414	△12,044	△327.28
前期比増減率(%)	△ 12.0	△ 62.1	△ 75.9	—	—

## 3. 剰余金の配当予想

## (1)配当予想の内容

基準日	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期末	期末	合計
今回発表予想	0円00銭	(未定)	(未定)
前期(平成21年3月期)実績	8円00銭	0円00銭	8円00銭

## (2)配当予想の概要

平成22年3月期の配当予想につきましては、平成21年5月19日の決算発表時では未定とさせていただいておりましたが、上記の業績予想の修正等を鑑み、第2四半期末を基準日とする剰余金の配当(中間配当)予想につきましては、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただく予定であります。

また、期末を基準日とする剰余金の配当(期末配当)予想につきましては、今後の経営環境の見通しについて先行き不透明な部分が多く、業績予想自体も困難な状況にあることから引き続き未定とさせていただき、配当予想額の開示が可能となり次第速やかに公表いたします。

以上